

日本視覚学会 Notice Board

□日本視覚学会関係

■1999 年度会費納入のお知らせ

本年度の会費未納の方は、一般会員 5000 円、学生会員 2000 円を至急振込んでください。なお、事務局の移転にともない、振替先も変更になっております。口座名等は NoticeBoard の最後をごらん下さい。

■日本視覚学会 2000 年冬季大会の参加募集

特別プログラムが決定致しました。参加・発表申込を受け付け開始致します。詳細は本号綴じ込みの案内をご覧ください。事務局の移転にともない、申込先も変更になっております。ご注意ください。

■日本視覚学会 1999 年夏季大会の報告

1999 年夏季大会は 7 月 26-28 日、河口湖畔サニーデビレッジにて開催されました。参加者は 174 名、一般講演（ポスター）は 66 題でした。なお、会場にて参加者の投票でベストプレゼンテーション賞の選定が行われた。その結果、四本裕子・佐藤隆夫「奥行、大きさの知覚に対する輻輳の効果」が選ばれ、四本さんが表彰された。

■2000 年会費について

従来は冬季大会の際に参加者からは参加費とともに年会費を徴収しておりましたが、今回から参加費とは別に振り替えて徴収することになりました。詳細は別に事務局より連絡いたします。よろしくお願いたします。

■世話人会報告

日本視覚学会第 1 期第 4 回世話人会が 1999 年 7 月 26 日に夏季大会会場の河口湖サニーデロジのホール 1 階会議室で開かれ、以下の点が審議および決議されました。

1. 2000 年冬季大会について

齋田実行委員長から企画案について説明があり、その大枠を承認した。

2. 2000 年夏季大会について

西田実行委員長から、企画案についての説明があった。

3. 2001 年冬期大会について

実行委員長として近江政雄氏（金沢工大）の就任が提案され、承認された。

4. 会長・幹事選挙について

投票締め切り期限、開票担当者を確認した。

5. 庶務・編集幹事報告

(1) 塩入庶務幹事から会勢報告（一般会員 390 名、学生会員 168 名、賛助会員 5 社）および事業報告（講演会 1 件、視覚関連学会大会の協賛 3 件）の報告があった。

(2) 前回世話人会で候補とした 5 名の会員（秋田宗平氏、池田光男氏、江森康文氏、大頭仁氏、鳥居修晃氏）を名誉会員とすることを承認した。

(3) 前回世話人会で候補とした兩名（池田光男氏、鳥居修晃氏）を来年度から監査とすることを決定した。

(4) 事務局移転は本年10月であるとの確認をした。来年度の会費徴収案内とあわせて、VISION 4号で広報することにした。

(5) 鶴飼編集幹事からVISION編集概況についての説明があった。外部委託について次回世話人会で見積付資料をもとに検討を進めることにした。

6. 他学会との連携

3Dフォーラムとの共催に関して、事務局レベルで話し合いを進めることにした。

7. 学会WWW

小田広報担当幹事から学術情報センターのサーバーで学会ホームページが立ち上がることが報告された。

■総会報告

日本視覚学会第1期第4回総会が1999年7月28日に夏季大会会場において開催された。内川会長から世話人会の報告がなされ、名誉会員候補はすべて承認された。また、選挙結果の報告があり、承認された。

■日本視覚学会第2期会長および幹事選挙の結果報告

日本視覚学会第2期(2000年1月1日~2001年12月31日)の会長および幹事選挙が1999年夏季大会会場の河口湖サニーデロッジにて行われました。投票総数36、有効数30(推薦どおり30、その他0)、無効数6で下記のとおり第2期の会長および幹事が決定しました。

会長：内川恵二(東京工大)

幹事：鶴飼一彦(日本福祉大)、小田浩一(東京女子大)、近江政雄(金沢工大)、大竹史郎(松下電器)、河原哲夫(金沢工大)、斎田真也(生命研)、佐藤隆夫(東京大)、塩入 諭(千葉大)、西田真也(NTT基礎研)、矢口博久(千葉大)

■日本視覚学会事務局移転のお知らせ

本年10月1日から事務局が移転しました。以降の連絡は新事務局までお願いいたします。なお、会費納入、学会参加費の払込先も変更になります。ご注意ください。

〒924-0838 石川県松任市八束穂 3-1

金沢工業大学人間情報システム研究所 気付

日本視覚学会事務局

電話 076-274-8250 ファックス 076-274-8251

メール vision@mattolab.kanazawa-it.ac.jp

郵便振替口座 加入者名：日本視覚学会 口座番号：00740-0-45762

NoticeBoard, Newsに掲載する案内等がございましたらお知らせ願います。

日本視覚学会事務局：

〒924-0838 石川県松任市八束穂 3-1

金沢工業大学人間情報システム研究所 気付

電話 076-274-8250

ファックス 076-274-8251

メール vision@mattolab.kanazawa-it.ac.jp

訂正とおわび

VISION Vol. 11, No. 3, p. 138 に掲載されました99年視覚学会夏季大会プログラムの7月27日分が途中(2-19)で切れておりました。お詫びします。27日分をすべて掲載いたします。また、豊橋技科大の中内氏の演題が手違いにより掲載されませんでした。合わせて追加するとともに、抄録も追加いたします。

27日 ポスター(ポスターセッション2)

- 2-1 (T2H) 奥行き, 大きさの知覚に対する輻輳の効果 四本裕子・佐藤隆夫(東大)
- 2-2 (T3C) 運動視差, 両眼視差, 輪郭の手がかりからの奥行情報統合
一川 誠(山口大) 斎田真也(生命研)
- 2-3 (T3C) 凸面鏡に映った対象の見かけの距離と見かけの大きさ
下野孝一(東京商船大) 東山篤規(立命館大) 中井怜二(東京商船大)
- 2-4 (T3C) 視野の位置に依存した相対運動成分の奥行き運動知覚への影響
懸樋大介・塩入 諭・矢口博久(千葉大)
- 2-5 (T3C) 大きさ手がかりが速さの恒常性に与える影響
谷口知隆・栗木一郎・内川恵二(東工大)
- 2-6 (T1H) 一般的な色名とカテゴリカル色名領域との関係
河合雅仁・川上元郎・近江源太郎(女子美大)
- 2-7 (T3H) ニューラルネットワークによる色のカテゴリカル知覚の獲得
鈴木哲明・長尾智晴・栗木一郎・内川恵二(東工大)
- 2-8 (T2B) 照明光の変化にともなう色覚感度の変化 栗木一郎・内川恵二(東工大)
- 2-9 (T3H) 周辺視野でのカテゴリカル色知覚における刺激サイズの影響
瀬川かおり・内川恵二(東工大)
- 2-10 (T3H) 色差の評価基準の変化とカテゴリカル色知覚 鯉田孝和・内川恵二(東工大)
- 2-11 (T3H) 感情効果における色名と色見本との乖離
李 相明・中村美喜・近江源太郎(女子美大)
- 2-12 (T3H) 暗い背景中の細い原色帯間の色同化効果 中川 貴(福岡工大)
- 2-13 (T2B) 色コントラスト変調順応による色相の変化 木村英司(千葉大)
- 2-14 (T3H) 色応答による透明視成立条件 伊東由紀・内川恵二(東工大)
- 2-15 (T3H) 色の見えに及ぼす周辺色の影響の定量化(3)
用品卓哉・中野靖久・末原憲一郎・矢野卓雄(広島市大)
- 2-15-B (T3H) 逆光学計算過程としての色彩透明視現象 中内茂樹(豊橋技科大)
- 2-16 (T3C) 明暗コントラスト・テクスチャによる領域分割過程の脳磁応答解析
大谷芳夫(京都工芸繊維大) 岡村昇一・吉田佳一・外山敬介(鳥津製作所) 江島義道(京大)
- 2-17 (T2C) 視覚マスキング効果の事象関連電位による解析
稲田龍成・成田泰士・江島義道(京大)
- 2-18 (T3C) 視覚マスキング効果の定常誘発電位による解析
成田泰士・稲田龍成・江島義道(京大)

- 2-19 (T2C) Abutting Line 刺激による主観的輪郭知覚及び図地分離知覚の脳磁応答解析
 岡村昇一 (島津製作所) 大谷芳夫 (京都工芸繊維大) 谷川昌司・江頭建哉 (京大)
 荒川 彰・外山敬介 (島津製作所) 江島義道 (京大)
- 2-20 (T3C) テクスチャ分凝に関わる三つの異なる処理段階の時間特性
 本吉 勇・西田眞也 (NTT)
- 2-21 (T4B) 輝度, 色検出感度に与える視覚的注意の選択的影響
 金子寛彦・山岸典子 (ATR人間情報) 内川恵二 (東工大) 郷田直一 (ATR人間情報)
- 2-22 (T4B) 視覚的注意による色・輝度コントラスト感度変化
 佐々木達也・内川恵二・栗木一郎 (東工大)
- 2-23 (T1H) 視覚的注意によって選択されない領域の色知覚 中澤宏光・菊地 正 (筑波大)
- 2-24 (T4B) 結合錯誤現象を説明する神経回路モデル
 菊池眞之 (筑波大) 徳島大介 (阪大) 福島邦彦 (電通大)
- 2-25 (T1H) 注意の移動時間に奥行きの違いが及ぼす影響 粕川正光・菊地 正 (筑波大)
- 2-26 (T4B) 注意による追跡の時間特性 井上智裕・塩入 諭・矢口博久 (千葉大)
- 2-27 (T2B) 文字の可読性を規定する諸要因 舟川政美 (日産自動車)
- 2-28 (T1H) ストループ様干渉効果に及ぼす表記語の種類とサイズの影響
 八木善彦・菊地 正 (筑波大)
- 2-29 (T4B) 発話処理における視聴覚情報の統合過程
 神崎利佳 (生命研) 加藤 隆 (関大/ATR人間情報)
- 2-30 (T2C) 対象物の見かけの重さのリフティングへの影響
 近江政雄・川原信博・山本圭一 (金沢工大)

2-15-B 逆光学計算過程としての色彩透明視現象

中内茂樹 (豊橋技科大)

重なり合った面の分光情報を推定する逆光学計算として色彩透明視現象を定式化する。まず、加法および減法混色について、その順光学過程を物理モデルとして記述する。次に、opaqueな面とtransparentな面が交差することで生じるX-junctionの周りの4色に対するセンサー応答から、面の分光特性(反射率, 透過率)を復元するアルゴリズムを記述する。その際、視覚系に取り込まれる際に分光情報が欠落するため、計算論的な拘束条件が課せられる。面の奥行き順序関係、混色タイプは、推定された面の分光特性の物理的実現可能性に基づいて決定できることを示す。また、実際の透明性の知覚がこうした逆光学計算による予測と定性的に一致することを示す。